

地区別計画



地区別計画

今後、急速に変化する社会潮流、特に引き続き人口減少、少子・高齢化が進む中、町民がまちづくりに関心を持てるよう、町民と行政が情報共有を図りながら協働によるまちづくりを展開していく必要があります。

町内の自然、文化、歴史などのさまざまな資源や特性を活かし、個性豊かで活気あるまちづくりを進めるため、町内を市街化区域と市街化調整区域の別や、大字区分などをもとに、4つの地区に分け、町民とともにきめ細かいまちづくりを進めていきます。

北部地区

大字築比地の全域
大字金杉の全域
大字魚沼の全域
大字大川戸のほぼ全域

中央西部地区

田島東を除く
市街化区域全域

中央東部地区

田島東の全域
田島南の全域
大字松伏の一部地域
大字田島の一部地域

南部地区

大字松伏の一部地域
大字上赤岩の全域
大字下赤岩の全域



【地区別計画の内容について】

地区別計画では、地区ごとに「地区の概要」と「人口動向」を整理し、今後のまちづくりに向けた「まちづくりの施策」を示しています。

北部地区

地区の概要

北部地区は、全域が市街化調整区域で、東部の江戸川沿いの集落、西部の大落古利根川から県道春日部松伏線・野田岩槻線にかけての集落、中央部の中川沿いの豊かな水田地帯で構成されています。

集落の中には、開発された既存住宅団地が点在しているほか、中央部の水田地帯は、ほぼ全域が農業振興地域の農用地区域に指定されています。

北東部の台地には、豊かな自然林・屋敷林が広がっており、特徴的な景観を形成しています。また、県や町に指定されている史跡や遺跡が多く存在しており、歴史を感じさせる地区でもあります。その反面、狭い生活道路の改善、排水路整備、公共交通網の充実を図るなど、日常生活の利便性を向上するための生活基盤の整備が求められています。北部地区の拠点としては、多くの町民の方が集える利便性を備えた憩いの場として、築比地区に松伏町北部サービスセンターを開設し、2024年度（令和6年度）からは、高齢者の総合相談窓口として、地域包括支援センターを併設します。隣接する農村トレーニングセンターには、子育て中の親子の交流の場や子育て相談の場として、北部地域子育て支援センターも併設されています。

また、2022年度（令和4年度）には、ごみの資源化率向上と安定的なごみ処理体制の構築をめざし、松伏町中間処理場を建て替え、新たに松伏町リサイクルセンターを開設しました。

北西部においては、県営まつぶし緑の丘公園を整備し、バーベキュー場やデイキャンプ場が設置され、町外からも多くの方が来園します。また、大川戸地区産業団地を整備し、税収の確保と雇用の創出が図られました。今後は、（都）東埼玉道路沿いを土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し、職住近接をめざします。

農業については、農業従事者の高齢化や後継者不足が課題として挙げられることから、担い手の育成や農業振興を図るための取り組みが求められています。

人口動向

区分	2018年(平成30年)4月1日		増減	2023年(令和5年)4月1日	
	北部地区	町全体		北部地区	町全体
地区別人口	5,844人 (町全体の19.6%)	29,788人	543人 減少	5,301人 (町全体の18.7%)	28,285人
年少人口	453人 (地区人口の7.8%)	3,565人 (町全体の12.0%)	110人 減少	343人 (地区人口の6.5%)	2,837人 (町全体の10.0%)
生産年齢人口	3,348人 (地区人口の57.3%)	18,092人 (町全体の60.7%)	513人 減少	2,835人 (地区人口の53.5%)	16,926人 (町全体の59.8%)
老年人口	2,043人 (地区人口の35.0%)	8,131人 (町全体の27.3%)	80人 増加	2,123人 (地区人口の40.0%)	8,522人 (町全体の30.1%)

2023年（令和5年）4月1日現在のこの地区の人口は5,301人で、町全体の人口の18.7%を占めています。0歳～14歳の年少人口は、343人で、北部地区人口の6.5%を占めています。65歳以上の老年人口は2,123人で、北部地区人口の40.0%を占めています。年少人口と老年人口の割合を町全体の割合と比較すると、老年人口の割合が増加する傾向がみられ、2018年（平成30年）4月1日の人口構成と比較しても、その傾向は強まっていることがわかります。

まちづくりの施策

★互いを認め合う、町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- ・コミュニティ活動の活性化のための支援
- ・コミュニティ活動施設の維持管理のための支援
- ・多くの町民が集える憩いの場である農村トレーニングセンターの維持管理

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

北部サービスセンターを中心に周辺地域を北部地域の拠点に位置付け、多くの町民が集える憩いの場としての機能を充実させ、地域の活性化を図ります。

また、（都）東埼玉道路沿いについては、土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し、税収の確保と雇用の創出を図るとともに、職住近接をめざし、地域の活性化を図ります。

農業については、農業経営を担う人材確保、農地の保全・有効活用、経営の効率化など、さまざまな取り組みにより活性化を図ります。

- ・北部サービスセンター機能の充実
- ・（都）東埼玉道路沿いの土地利用の検討
- ・認定農業者の経営安定化への支援や農地所有的確法人の参入の促進
- ・優良農地の保全と遊休農地の解消及び有効利用
- ・農業の担い手への農地の集積、集約化の促進と首都近郊の立地を生かした都市型農業の推進
- ・河川の水質保全や営農環境の向上のための用排水路の整備推進

★持続可能で利便性の高い快適空間のまちづくり

県営まつぶし緑の丘公園や河川敷と合わせて水と緑のネットワークを形成し、町民憩いの空間として活用します。

また、生活道路や排水路などの生活基盤の整備を一体的に進めます。

- ・狭あいな生活道路の改善
- ・既存公共交通の維持及び利用促進並びに民間事業者と連携した買い物支援
- ・（都）東埼玉道路の整備促進
- ・せんげん台駅方面や野田市方面への新たな道路整備の検討

- ・生活雑排水対策としての合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- ・農業集落排水処理施設の適正な維持管理
- ・豊かな自然環境や景観、史跡、遺跡の保全・活用

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

地域の中で安心して暮らせる自然と調和した良好な環境づくりを図ります。

また、日常の安全・安心を確保するため、防犯体制の構築や地域防災力の向上など防災体制の充実を図ります。

- ・河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- ・河川環境や緑豊かな自然環境などの保全
- ・不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造
- ・振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺の被害防止策の検討
- ・乳幼児や高齢者を含む要配慮者への防災支援体制の構築

中央西部地区

地区の概要

中央西部地区は、全域が市街化区域で宅地化が進んでいます。県道越谷野田線や県道葛飾吉川松伏線が通り、バス交通の利便性も高い地域です。また、町役場、郵便局、中央公民館、B&G 海洋センター、新たに整備された松伏町防災備蓄センターなどの公共施設や医療機関、商店などのサービス施設が集まっており、町の中心地域となっています。

さらに、松伏総合公園・松伏記念公園をはじめとした都市公園も多くあり、水と緑が共存する豊かな居住空間でもあります。

また、(都) 浦和野田線付近を、土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し、職住近接をめざします。

この地区の課題は、地域住民間のコミュニケーション、既存住宅地の狭あい道路対策、今後増加が予想される空家等への対策、台風や局地的大雨に対応するための浸水被害対策、既存公共施設の適切な維持管理による長寿命化などが挙げられます。

土地区画整理事業によって生み出された宅地に概ね住宅が立地したため、生活環境とコミュニティのさらなる充実が求められます。

また、新たな保健センターの建替えを、中央西部地区で検討しており、松伏記念公園、松伏総合公園、また B&G 海洋センターなどの施設と一体になった母子保健事業の展開や効率的な健（検）診や相談体制の充実を図り、さまざまな事業の拠点として健康づくりを推進していけるよう体制を整えます。

人口動向

区分	2018 年(平成 30 年)4 月 1 日		増減	2023 年(令和5年)4 月 1 日	
	中央西部地区	町全体		中央西部地区	町全体
地区別人口	20,436 人 (町全体の 68.6%)	29,788 人	733 人 減少	19,703 人 (町全体の 69.7%)	28,285 人
年少人口	2,724 人 (地区人口の 13.3%)	3,565 人 (町全体の 12.0%)	576 人 減少	2,148 人 (地区人口の 10.9%)	2,837 人 (町全体の 10.0%)
生産年齢人口	12,712 人 (地区人口の 62.2%)	18,092 人 (町全体の 60.7%)	410 人 減少	12,302 人 (地区人口の 62.4%)	16,926 人 (町全体の 59.8%)
老年人口	5,000 人 (地区人口の 24.5%)	8,131 人 (町全体の 27.3%)	253 人 増加	5,253 人 (地区人口の 26.7%)	8,522 人 (町全体の 30.1%)

2023 年（令和 5 年）4 月 1 日現在のこの地区の人口は 19,703 人で、町全体の人口の 69.7%を占めています。

0 歳～14 歳の年少人口は 2,148 人で、中央西部地区人口の 10.9%を占めています。

65 歳以上の老年人口は 5,253 人で、中央西部地区人口の 26.7%を占めています。

2018 年（平成 30 年）4 月 1 日の人口と比較して、地区全体では人口は減少していますが、年少人口が減少する一方、老年人口の増加が見られます。

まちづくりの施策

★互いを認め合う、町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- ・コミュニティ活動の活性化のための支援
- ・コミュニティ活動施設の維持管理のための支援
- ・町のスポーツ・芸術・文化活動の中心となる中央公民館、B&G 海洋センターなどの維持管理

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

（都）浦和野田線付近を土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し、税収の確保と雇用の創出を図るとともに職住近接をめざし、地域の活性化を図ります。

- ・（都）浦和野田線付近の土地利用の検討

★持続可能で利便性の高い快適空間のまちづくり

良好な住環境を形成する観点から、景観に配慮した生活空間づくりを進めます。

また、台風や局地的大雨による浸水被害を最小限にするため、雨水幹線、排水路の整備を推進します。

- ・既存公共交通の維持及び利用促進並びに民間事業者と連携した買い物支援
- ・（都）東埼玉道路の整備促進
- ・（都）浦和野田線の未整備箇所の整備促進
- ・松伏総合公園・松伏記念公園など整備済み公園の維持管理
- ・既存道路や既存水路の維持・修繕改修の推進
- ・公共下水道の適正な維持管理、接続率の向上
- ・河川環境や自然環境の保全
- ・雨水幹線や排水設備の整備などによる浸水対策の推進

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

自然と調和した、快適で利便性に優れた良好な居住の整備や保全を図ります。

また、台風や局地的大雨による水害の発生を防ぐため治水対策などを図り、災害に強いまちづくりを推進するとともに、日常の安全・安心を確保するため防犯体制の構築を図ります。

- ・河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- ・河川環境や緑豊かな自然環境など多様な環境の保全
- ・水害の発生防止を目的とした雨水対策としての下水道計画の見直し、ハザードマップなどによる浸水想定区域の周知
- ・振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺の被害防止策の検討
- ・乳幼児や高齢者を含む要配慮者への防災支援体制の構築

中央東部地区

地区の概要

中央東部地区は、農村的要素と都市的要素が調和した地域です。東埼玉テクノポリスのある田島東を除く全域が市街化調整区域となっています。県道中井松伏線に沿って既存の集落が形成され、県道越谷野田線の両側に住宅や商店、さらに、第一保育所やかるがもセンター、学校給食センターなどの公共施設があります。また、地区の東側を南北に流れる中川に沿っては、豊かな水田地帯が広がる、中川河川敷の景観など良好な自然環境が残っています。

一方で、(都)東埼玉道路の整備に伴い、(都)東埼玉道路と(都)浦和野田線が結節する松伏インターチェンジ周辺については、引き続き新市街地区域として、税収の確保と雇用の創出を図るため、職住近接をめざした企業誘致と、町民の期待の高い公共交通の拠点として、事業採算性などを踏まえたバスターミナルを併設した道の駅の設置を推進するとともに、高速鉄道東京8号線の松伏新駅を想定した町の核づくりとしての土地利用が求められています。

新市街地区域においては、松伏田島産業団地の造成工事が完了し、企業の立地が進んでいます。

人口動向

区分	2018年(平成30年)4月1日		増減	2023年(令和5年)4月1日	
	中央東部地区	町全体		中央東部地区	町全体
地区別人口	1,378人 (町全体の4.6%)	29,788人	62人 減少	1,316人 (町全体の4.7%)	28,285人
年少人口	162人 (地区人口の11.8%)	3,565人 (町全体の12.0%)	23人 減少	139人 (地区人口の10.6%)	2,837人 (町全体の10.0%)
生産年齢人口	813人 (地区人口の59.0%)	18,092人 (町全体の60.7%)	82人 減少	731人 (地区人口の55.5%)	16,926人 (町全体の59.8%)
老年人口	403人 (地区人口の29.2%)	8,131人 (町全体の27.3%)	43人 増加	446人 (地区人口の33.9%)	8,522人 (町全体の30.1%)

2023年(令和5年)4月1日現在のこの地区の人口は1,316人で、町全体の人口の4.7%を占めています。

0歳～14歳の年少人口は139人で、中央東部地区人口の10.6%を占めています。

65歳以上の老年人口は446人で、中央東部地区人口の33.9%を占めています。

2018年(平成30年)4月1日の人口と比較すると、老年人口は増加していますが、年少人口と生産年齢人口は減少して、地区人口は減少しています。

まちづくりの施策

★互いを認め合う、町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- ・コミュニティ活動の活性化のための支援
- ・コミュニティ活動施設の維持管理のための支援

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

(都)東埼玉道路と(都)浦和野田線が結節する松伏インターチェンジ周辺は、計画的な土地利用を推進しつつ、職住近接をめざした企業誘致を進めます。

また、松伏らしい文化や地域資源を対外的に発信するとともに、町民の交流の場の拠点として、また、町民の期待の高い公共交通の拠点として、事業採算性などを踏まえ、バスターミナルを併設した道の駅の設置を推進していきます。

さらに、高速鉄道東京8号線の松伏新駅を想定した、町のシンボルとなり、コミュニティの要となる交流の場づくりをめざした核づくりに努めます。

- ・高速鉄道東京8号線松伏新駅周辺エリアの開発の研究
- ・(都)東埼玉道路、松伏インターチェンジ周辺エリアの開発の推進
- ・営農環境の向上のための用排水路の整備推進

★持続可能で利便性の高い快適空間のまちづくり

良好な住環境を形成する観点から、景観に配慮した生活空間づくりを進めます。

- ・既存公共交通の維持及び利用促進並びに民間事業者と連携した買い物支援
- ・(都)東埼玉道路の整備促進
- ・(都)浦和野田線の未整備箇所の整備促進
- ・高速鉄道東京8号線の整備促進
- ・吉川市方面への新たな道路整備の検討
- ・生活雑排水対策としての合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- ・既存道路や既存水路の維持・修繕改修の推進
- ・河川環境や自然環境の保全
- ・既存住宅地の生活基盤の整備

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

地域の中で安心して暮らせる自然と調和した良好な環境づくりを図ります。

また、日常の安全・安心を確保するため防犯体制の構築や地域防災力の向上など防災体制の充実を図ります。

- ・河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- ・河川環境や緑豊かな自然環境などの保全
- ・不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造
- ・振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺の被害防止策の検討
- ・乳幼児や高齢者を含む要配慮者への防災支援体制の構築

南部地区

地区の概要

南部地区は、全域が市街化調整区域で、県道葛飾吉川松伏線沿いに集落が形成されています。

また、大落古利根川、中川という二つの一級河川が流れ、これらを中心に集落の東西に広がる農地からなる、美しい田園景観が形成されています。西側の畑作地帯、東側の水田地帯とも、農業振興地域の農用地区域に指定されています。

南部地区の拠点としては、カフェなどのサロン事業をはじめ、各種講座や教室など多世代の方が集える場として、赤岩地区公民館を改修し、多世代交流学習館を開設しました。多世代交流学習館は生涯学習に取り組めるよう、図書室や学習スペースも併設されています。

(都) 東埼玉道路沿いについては、土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し、職住近接をめざします。

この地区も北部地区と同様に、狭い生活道路の改善、排水路整備、公共交通網の充実を図るなど、日常生活の利便性を向上するための生活基盤の整備が求められています。

また、農業従事者の高齢化や後継者不足が課題として挙げられることから、担い手の育成や農業振興を図るための取り組みが求められています。

人口動向

区分	2018年(平成30年)4月1日		増減	2023年(令和5年)4月1日	
	南部地区	町全体		南部地区	町全体
地区別人口	2,130人 (町全体の7.2%)	29,788人	165人 減少	1,965人 (町全体の6.9%)	28,285人
年少人口	226人 (地区人口の10.6%)	3,565人 (町全体の12.0%)	19人 減少	207人 (地区人口の10.5%)	2,837人 (町全体の10.0%)
生産年齢人口	1,219人 (地区人口の57.2%)	18,092人 (町全体の60.7%)	161人 減少	1,058人 (地区人口の53.8%)	16,926人 (町全体の59.8%)
老年人口	685人 (地区人口の32.2%)	8,131人 (町全体の27.3%)	15人 増加	700人 (地区人口の35.6%)	8,522人 (町全体の30.1%)

2023年(令和5年)4月1日現在のこの地区の人口は1,965人で、町全体の人口の6.9%を占めています。

0歳～14歳の年少人口は207人で、南部地区人口の10.5%を占めています。65歳以上の老年人口は700人で、南部地区人口の35.6%を占めています。

2018年(平成30年)4月1日現在の人口と比較すると、年少人口の割合の減少と老年人口の割合の増加が顕著です。

まちづくりの施策

★互いを認め合う、町民主体の地域コミュニティ豊かなまちづくり

地域住民の交流を活発にし、コミュニティの育成を図ります。

- ・コミュニティ活動の活性化のための支援
- ・コミュニティ活動施設の維持管理のための支援
- ・多世代間の交流や生涯学習活動推進の場として、多世代交流学習館の維持管理

★活気あふれるにぎわいのまちづくり

(都) 東埼玉道路沿いについては、土地利用検討エリアとして、企業誘致を推進し税収の確保と雇用の創出を図るとともに、職住近接をめざし、地域の活性化を図ります。

農業については、農業経営を担う人材確保、農地の保全・有効活用、経営の効率化など、さまざまな取り組みにより農業の活性化を図ります。

- ・(都) 東埼玉道路沿いの土地利用の検討
- ・認定農業者の経営安定化への支援や農地所有的確法人の参入の促進
- ・優良農地の保全と遊休農地の解消及び有効利用
- ・農業の担い手への農地の集積、集約化の促進と首都近郊の立地を生かした都市型農業の推進
- ・河川の水質保全や営農環境の向上のための用排水路の整備推進

★持続可能で利便性の高い快適空間のまちづくり

生活の利便性の改善や優良農地の環境保全、農業生産基盤の整備などを図ります。

- ・狭あいな生活道路の改善
- ・既存公共交通の維持及び利用促進並びに民間事業者と連携した買い物支援
- ・(都)東埼玉道路の整備促進
- ・生活雑排水対策としての合併処理浄化槽の普及促進と排水路の整備推進
- ・吉川市方面への新たな道路整備の検討

★安全・安心な暮らしのできるまちづくり

地域の中で安心して暮らせる自然と調和した良好な環境づくりを図ります。

また、日常の安全・安心を確保するため防犯体制の構築や地域防災力の向上など防災体制の充実を図ります。

- ・河川空間や生活環境に対する保全意識の向上
- ・河川環境や緑豊かな自然環境などの保全
- ・不法投棄や埋立ての監視、意識啓発などを通じた良好な環境の保全と創造
- ・振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺の被害防止策の検討
- ・乳幼児や高齢者を含む要配慮者への防災支援体制の構築

